窓

京都新聞　平成31年（2019年）3月23日(土)

なりたい自分 描き近づく

上京区・岩崎　千夏（大学生・22）

　今、私は人生の節目に立っている。4月から保育士として働く姿は想像もつかない。一日を迎えるごとに4月からの自分への期待と不安が膨らんでいく。

　これから人生の半分以上を保育士として生きていく。夢を現実に変えることができた私だから、これから大きな壁にぶち当たったとしても、乗り越えることのできる自信を、22年間かけてつけてきた。

　今、まだ見えない明日の自分と向き合うことはとても怖いけれど、まだ見ぬ将来と新しい自分に出会うために、さらに夢を形に変えていきたい。

　保育士としての大きな責任と期待に応えるために、今の自分が将来の自分にできることを考えて、過ごしていきたいと思う。そして今まで生きてきた中で感じた、なりたい自分、思い描く保育士像に近づけるよう、常に目標を持ち続けていきたいと思う。

※無断転載不可